

新潟市アグリパーク要求水準・目標値(評価指標)

視点	評価項目	2021年度 評価指標	2021年度実績	評価	コメント
業務	入場者数	200,000人以上/年	165,932人	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響が続いたことによる)
		宿泊施設の稼働率 :39%以上/年	24.2%	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響が続いたことによる)
	食育の推進	教育ファームカリキュラムの受講者 :27,000人以上/年	17,571人	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響が続いたことによる)
	新規就農者支援	就農支援プログラムの受講者数 :600人以上/年	588人	B	僅かに指標を下回った(新型コロナウイルスの影響が続いたことによる)
	6次産業の推進	・食品加工支援講習会の開催 :70回以上/年 ・食品加工支援講習会の受講者 :470人以上/年	・食品加工支援講習会の開催 :51回 ・食品加工支援講習会の受講者 :340人	C	講習会の実施回数、受講者数ともに指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
	広報の充実	・HPの情報更新 :20回以上/年 ・アクセス件数 :12万回以上/年	・HPの情報更新 :322回 ・アクセス件数 :109,603回	B	アクセス件数は指標を下回ったものの、HPの更新回数は指標を大きく上回った
	利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	95.8%	A	指標を大きく上回った
財務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	指定管理収支が赤字	C	指定管理収支が赤字
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	適正に実施	B	指標のとおり
業務	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	・防災訓練:2回 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルを作成済	B	指標のとおり
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 :1回以上/年	1回	B	指標のとおり
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 :90%以上	100%	A	指標を大きく上回った
	関係団体・地域との調整	関係機関・地域との連絡調整会議の実施 :各1回以上/年	1.7回	A	指標を上回った
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ :延べ1,000人/年以上	1,105人	A	指標を大きく上回った
	社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 :延べ100人/年以上	0人	C	指標を大きく下回った(新型コロナウイルスの影響等による)
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	適正に実施	B	指標のとおり
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 :1人あたり2回以上/年	3.7回/年	A	指標を上回った
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 :90%以上	93.3%	B	指標のとおり

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

令和3年度の総来場者数は165,932人となった。新型コロナウイルスの影響(臨時休館・各種体験イベントの中止・施設利用人数の制限等)が続き、ほぼ前年度並みの利用実績であった。今後、新型コロナウイルス対策の徹底を図りながら、ウィズコロナを前提として、さらに魅力あるプログラム・イベントの企画と利用者数確保が課題である。

教育ファーム関係では、学校は延べ137校、6,545人が来園した。前年度と比較して、利用学校は19校(1,357人)増加した。小学校の利用割合が最も高く、全体の78%を占めている。その他の学校種別では幼・保育園の9%、中学校の7%、特別支援学校の5%であり、学年別では小学校2年生の51%が最も多い。参加した学校の評価と満足度は引き続き高く、アンケートでは100%の学校から「農業体験学習を通じて発見や学びがあった」という評価を得た。

一般向けでは、野菜収穫・調理・動物触れ合いを繋ぐ体験ツアー方式の満足度が高かった。今後の課題として、学校関連ではギガスクール構想やSDGsに対応した新規プログラム開発など、また一般向け体験においてもSDGsと関連付けたプログラムの充実などであるが、アグリパークならではの利点を活かして解決に取り組みたい。

食品加工支援業務関係では、農業6次産業化のベースとなる食品加工の基礎を学ぶための講座を51回開催し延べ340人が受講した。また講座以外の加工室利用は延べ385回759人が利用したが、講座受講者数・加工室利用者数ともに前年を上回った。なお加工室利用者の職業は88%が農業関係者であった。令和3年度では商品化された製品が19品、一次加工品が7品、デザイン作成が26品で、特にデザイン作成依頼が年々増加している。加工技術相談の回数は183回であった。今後もニーズに沿った講座の開催、相談事項への適切なアドバイスの提供により、6次産業化支援に努めていきたい。

就農支援事業では、常設の就農相談窓口に新規相談が13名(新規10名、後継ぎ3名)からあった。就農体験研修には、果樹栽培コース3名、野菜栽培コース3名が受講した。また農業簿記や経営管理の要点を学ぶ農業経営研修に、新規就農者11名が参加した。農業者の高齢化や担い手不足による遊休農地拡大や産地弱体化など地域農業を取り巻く状況は厳しいことから、それらに対応した就農支援事業を展開する必要がある。

昨年度コロナ禍で中止した恒例イベント「どんと焼き」を、農村伝統行事継承の意義から地域コミュニティ協議会と連携して復活開催することができ好評であった。また農機具メーカーとのコラボ企画として、最新スマート農業見学を目的に自動直進トラクターの実演を行った。

広報の充実では、ホームページによる適時情報発信に努めてアクセス件数が前年度比約1万件増加したほか、農業体験や社会貢献の取り組みなど前広にプレスリリースを行い、地元紙やテレビなどで複数回報道され集客にも繋がった。

次年度においても、直売所やレストランとは元より南区観光農園等との地域連携をより強化して各種施策を積極的に展開していくとともに、より市民に近く親しみやすい体験施設を目指した運営を行い、利用者数の安定的増大とともに、農業振興と地域の活性化などの機能発揮に努めるものとする。

所管課による総合評価(所見)

アグリパークの設置目的及び事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって、9月に施設全体の一斉休館を行ったほか、1~3月においても飲食を伴う活動の制限を行った。また、各種講座や体験活動の参加定員を減らすなど、令和2年度に引き続き感染防止のための利用制限を行わざるをえなかったことから、入場者数などの評価指標は要求水準を達成するのが困難な状況であった。

一方で、来場者の満足度は95.8%と、目標を大きく上回った。これは、日々変化する感染症の状況を踏まえて、施設マニュアルの見直しを随時適切に行い、利用者の安心・安全に配慮した対応を行ったことや、コロナ禍でも楽しめる創意工夫を凝らした体験を実施したことなどが、高い評価につながったものと考えられる。

令和3年度には、新たに整備したWi-Fi接続環境を活用して、学校関係ではロイノートを活用したプログラムを新たに実施したほか、一般宿泊の関係では県民割キャンペーンも活用した合宿・研修向けプランや、独自のワーケーションプランなどの旅行商品を開発し、新たな客層の開拓を図った。また、飲食を伴う活動を制限していた期間においても、調理体験の代替としてアグリクラブを企画したり、社会貢献活動に取り組むなど、コロナ禍においても施設の特色を活かした積極的な取り組みが数多くみられたことを高く評価する。

今後も感染防止の対策を行いながら、特色ある体験メニュー等をさらに充実させ、引き続き多くの方に満足いただける施設となるよう取り組んでいきたい。